

学習指導要領	教師の願い	児童の実態
第5学年の目標(3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。	- 資料から疑問に思ったことを基に課題を立ててほしい。 - 課題解決のために友達と協働し粘り強く話し合いをすることで、学習内容の理解を深めたい。	個別に課題を立てて解決することはできるが、問題に直面したときに自信を無くして課題を変えてしまう傾向がある。また、友達の意見をよりよくするための助言や、反対意見を伝えることが苦手な姿が見られる。

校内研究主題

主体的・協働的な学びを通して、思いや考えを深める児童の育成

<「主体的・協働的」の捉え>

社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、調べたことや考えたことを表現しようとする。
調べたことを共有したり、互いの課題について話し合ったりする。

<「思いや考えを深める」の捉え>

自分と違う課題や同じ課題の友達と対話することで、新たな発見をしたり、新たな課題を見いだしたりする。

目指す児童像(高学年)

粘り強く対話し、様々な考えをつなげ、自分の考えを見つめ直したり、よりよくしたりする児童

仮説

教師が資料を精選し、個人課題を探究したり、協働ができるようにしたりする指導計画の設定を工夫すれば、児童は自らの課題に自信をもち、課題解決に向けて粘り強く対話し、様々な考えをつなげ、自分の考えをよりよくするだろう。

研究主題に迫る手だて ～個別に深く探究し、充実した協働をするために～

(1) 学ばなくてはいけないことを学習するための工夫

- ① 学習問題作りや個人課題を立てる時の資料提示の工夫
提示する資料を精選することで、問いをもちやすくし、課題解決に向けての見通しをもちやすくする。
- ② 学習問題を立ててから個人課題を立てる
- ③ ポイントレッスンで学習内容をおさえる

(2) 指導計画の工夫

個別探究の時間と友達と協働する時間を組み合わせることで個人課題に自信をもって学習し続けられるようにする。

(3) 協働的な学習活動の工夫

- ① 資料を基にして考え、対話し、まとめる
- ② 次につながる振り返りを行うポイント
 - ・ 新しい発見や気づき
 - ・ 友達との関わり

第5学年社会科学学習展開案

令和4年2月10日（木）第5校時
杉並区立高井戸第二小学校 5年4組 30名
授業者 教諭 田沢 崇史

- 1 単元名 「わたしたちの生活と環境」
小単元名 「自然災害を防ぐ」 8時間扱い

2 小単元の目標

我が国の国土の自然環境と国民生活について、災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに注目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで国土の自然災害の状況をとらえ、自然条件との関連を考え、表現することを通して、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などがさまざまな対策や事業を進めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 小単元の評価規準

知識・技能	①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。 ②調べたことを白地図や図表などにまとめ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な事業を進めていることを理解している。
思考・判断・表現	①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見出し、国土の自然災害の状況について考え表現している。 ②わが国で発生する様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や県などの防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	①自然災害について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

4 単元について（教材観 児童の実態）

（1）学習指導要領との関連

本単元は、学習指導要領の内容（5）ア（ア）「自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること」、イ（ア）「災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること」に対応している。第4学年では、過去に自分が住む都道府県で起きた自然災害を扱うのに対して、第5学年では、国土を保全し国民生活を守るために国や県などが進めている様々な対策や事業を扱う。

（2）学習材観

日本では地震や津波、風水害、火山災害、雪害など様々な自然災害が起こりやすいことを、全国各地の事例をもとに学習していく。自然災害についてはどの児童も実際に体験したことがあるので、自分の身近に感じながら学習に取り組むことのできる学習材である。

学習問題は、「国や都道府県では、自然災害に対してどのような対策をしているのだろうか」である。児童は個

別探究と協働の学びによって学習問題に迫っていく。個別探究については、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害等の中から一つ探究したい個人の課題を設定し、その災害の起こる原因や国や都道府県が行っている対策を調べていく。学習の後半では自分と違う災害を調べている児童や同じ災害を調べている児童と対話する協働の学びによって、知識を増やしたり、自分の考えを深めたりすることを目指す。

本単元では、国や都道府県が行う防災の取組を児童が探究する学習であるが、この学習の経験を第6学年の「我が国の政治のはたらき」における国や都道府県の政治の取組の学習へとつなげていきたいと考える。

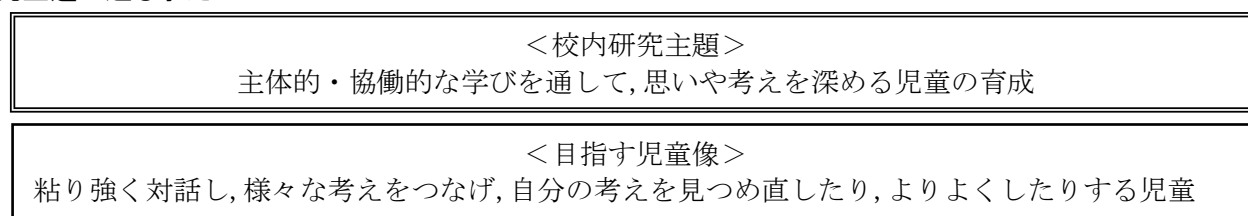
(3)学習者について

本学級では、様々な教科で児童が個別で課題を立てて解決することや、友達と考えを伝え合うことを積極的に授業に取り入れて学習を進めてきた。社会科では、個別で調べて知識を獲得した後、友達との話し合い活動を通して知識を増やしていく学習を1学期から続けてきた。意見や考えを伝えることに抵抗が少なく、5月に実施した杉並区特定の課題に対する調査の意識・実態調査でも、「自分の考えや気持ちを理解してくれる友達がいる」という設問で96.4%の児童が肯定的な回答をしており、児童同士で考えを認め合う風土が育っている。

しかし一方で、「今の自分に自信がある」という設問で肯定的な回答をした児童は67.9%にとどまった。この数値が表すように、児童が個別で課題を立てた後、学級の中で同じ課題を調べる友達がいなかったり、少し調べて先に進まなかったりしたときに、自信を失って自分の課題を変えてしまう児童がいる。

児童に自信をもたせるために、本単元では、児童同士で調べた内容を伝えたり、助言したりする活動を意図的に取り入れている。友達との対話を通して、自分の考えを補完したり、別の考えを他の児童からもらったりすることで、自分の考えに自信がもてるようにする。また、課題解決に自信をもつと同時に、この協働的な学習を通して見方や考え方が広がるよう指導を行っていく。

5 研究主題に迫る手だて



(1)学ばなくてはいけないことを学習するための工夫

①学習問題作りや個人課題を立てるときの資料提示を工夫する

学習問題を決めるときや個人課題を立てるときに最も重要なのが導入における資料提示である。学習問題を「国や都道府県」が「自然災害」に対してどのような「対策」をしているのかに焦点が当たるように資料を吟味し、提示の工夫が必要になる。

本単元は、「自然災害」に焦点を当てることになるので、様々な種類の災害に関するデジタル教材を提示して、日本では様々な災害が発生していることに改めて気付かせる。また、調べる段階では、補助資料として児童タブレットにも画像を送り、拡大するなどして細かい部分まで見られるようにする。

②学級全体で学習問題を決めてから、個人課題を決める

本小単元では、学習問題を全員で確認した上で、そのために何を調べるかを自己決定させる。学習問題に対して、予想を立て、予想を基にどのようなことを調べたいか（個人課題）を決め、学習計画を個人で立てる。学習問題を全体で決めた後に個人課題を決めることで、単元のねらいに即した調べ学習ができるようにする。

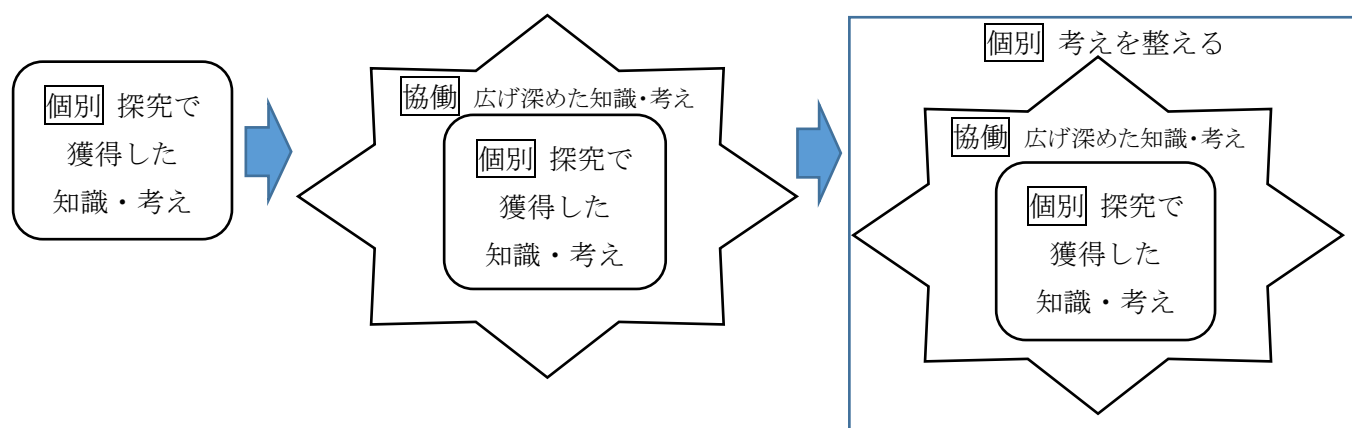
③ポイントレッスンで学習内容をおさえる

本単元では、基本的に児童自ら立てた個人課題を探究しながら学習を進める。その中で、選択されなかった内容についても指導しなくてはならない。児童が調べていく中で興味関心が広がり、初めに立てた課題よりも広い範囲の内容に発展させながら進めることも考えられるが、学級全体で学ばなくてはならない内容を「ポイントレッスン」を行って押さえる。ポイントレッスンは、個人探究の中で生かせるように、調べ始める前に設定する。内容は、後述の「知識の構造図」に基づき学習する用語や語句を中心にして短時間で行うようにする。

(2)指導計画の工夫

学習問題に対して個人課題を立て、個別で探究をし、それぞれの調べたことをもち寄り協働できるように指導計画を設定する。児童が自分の課題に対して自信をもって学習し続けることができるように協働する場面や方法を意図的に設定して行う。個人で調べたり、考えたりしたことを協働することで、同じ考えに出会い、自信をもてるようにしたい。また、違う考えに気付くことで新たな発見や次への意欲を高めることを目指したいと考える。

協働の順番として、まずは同じ課題の友達と話し合い、次に違う課題の友達、その後は相手を自己選択して協働する。協働した後、また個別での探究に戻すという単元の大きな流れを設定する。



(3)協働的な学習活動の工夫

①資料を基にして考え、対話し、まとめる

児童は「友達と考えを交流する」といっても学習に生かしたり、考えを深めたりできる協働をすることは難しい。そこで、自分が調べたときに活用した資料を明確に示しながら、自分の考えに対して根拠をもって対話を進めるよう指導する。この手だてによって、協働する内容を充実させることを目指す。

②次につながる振り返りを行う

児童が個人探究を進める際に、学習の振り返りが重要である。ポイントとして授業の終末に、「新しい発見や気付いたこと」「友達の関わりで良かったこと」を具体的に書くように指導する。その内容を次時の導入で紹介し、学ぶ方法や内容を広めたい。

〈知識の構造図〉

まとめる

中心概念
(概念的知識)

自然災害は国土の自然条件などに関連して発生している。自然災害から国土を保全し国民生活を守るために、国や都道府県などが様々な対策や事業を進めている。

〈第8時〉

社会的事象
(具体的知識)

日本では様々な自然災害が発生しており、これからは発生する可能性がある。

〈第1～2時〉

日本は複数のプレートが出合う位置にあり、内陸にも断層が多く地震が発生しやすい。国や都道府県は地震の前触れなどについて話し合ったり、実際に地震が起きたときの対応を検討したりしている。

津波被害は大きな地震が発生した後に起こる。津波の被害を減らすために、国や都道府県では、防波堤や津波避難タワーを建設しているほか、防災訓練などを行っている。

日本は、つゆや台風があるため、風水害の被害に備える必要がある。そのため、国や都道府県では砂防ダム、放水路、ハザードマップなどの多様な対策を行っている。

火山の噴火に備えて、気象庁では常に観測を行っている。また、大雪に備えて雪崩を防ぐ柵などを道路の脇に作っている。

・地震災害
・風水害
・雪害
・津波災害
・火山災害

・緊急地震速報
・災害対策本部
等

・津波ひなんタワー
・防潮堤
等

・砂防ダム
・ハザードマップ等

・火山の観測
等

〈第3～5時〉 個人の課題を設定し個別に探究する
〈第6, 7時〉 児童同士で調べたことを共有する

用語・語句

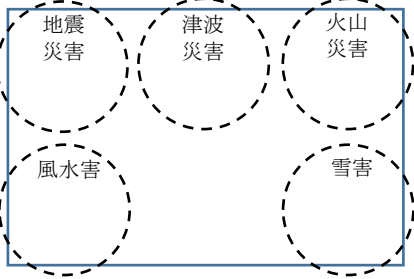
問題解決的な
学習の過程

つかむ

調べる

6 単元と評価計画（全8時間扱い）

時	目標	・主な学習活動	評価規準（評価方法）
1 本時 2 つかむ	日本で起きる自然災害について話し合い、学習問題をつくる。	- 自分たちの生活と自然環境との関わりについて話し合う。 - 日本では、どこで、どのような自然災害が起こっているか調べる。 - 地形や気候との関連、防災の視点で問いを見いだし、学習問題をつくる。	【思】 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見出し、国土の自然災害の状況について考え表現している。 （観察、ノート）
	予想される学習問題 国や都道府県では、自然災害に対してどのような対策をしているのだろうか。		
		学習問題の予想を基に、学習問題を解決するための個人の課題を作り、学習計画を立てる。	【主】 自然災害について、予想や学習計画を立て、解決しようとしている。（観察、ノート）
3 4 5 調べる ①	- 様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や県などの対策や事業の役割を考え表現する。 - 様々な自然災害が起きる位置、時期、仕組みや被害を減らすための防災対策について理解する。 - 国や都道府県の行っている対策について、自分の調べたことを基に友達に説明したり、話し合いをしたりできるように考えを整理する。	第3～5時で、児童の進捗の様子を見ながら、個別と協働の両方の学習を行う。 〈個別〉 - 個人の課題を選び、調べてまとめる。（地震災害・津波災害・風水害・火山災害・雪害など） - 友達に説明したり、質問に答えたりしたことを基に、自分の考えを見直したり、詳しくしたり、整理したりする。 〈協働〉 - 自分と同じ課題を調べている友達と話し合い、様々な自然災害に詳しくなったり、自分の課題について新たな発見をしたりする。 - 友達に自分の調べた内容や自分の考えたことを伝え、もっと調べてみたいことを見つけたり、新たな疑問を見いだしたりする。	【思】 わが国で発生する様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や都道府県の防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、適切に表現している。 （ノート、画用紙、タブレットなど） 【知】 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。 （ノート、画用紙、タブレットなど） 【主】 自然災害について、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 （観察、ノート、画用紙、タブレットなど）

6 7 調 べ る ②	・国や都道府県の行っている対策について, 自分が調べたことを基に友達と話し合う。	・同じ課題を調べた児童を, 課題ごとにA, B, 2つのグループに分け, 自然災害の対策について話し合う。 ・第6時にAグループが発表を行い, Bグループは各発表場所を回って自分が調べていない災害について学んだり, 自分が調べた災害について新たな発見を見いだしたりする。また, 質問をしたり感想を伝えたりする。 ・第7時はBグループが発表を行い, Aグループが発表を聞いて質問したり, 感想を伝えたりする。 	【思】 様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて, 国や都道府県の防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え, 表現している。 (観察, 振り返りの記述)
8 ま と め る	・自然災害と国土とのかかわりや, 防災の取り組みについて学習したことをまとめることができる。	・友達との話し合いで新たに分かったことや自分の考えが詳しくなったことを整理して, 学習問題の答えを出す。 ・児童の理解の様子に応じて, ポイントレッシンを行い用語・語句の説明をする。	【知】 調べたことを白地図や図表などにまとめ, 自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや, 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な大切や事業を進めていることを理解している。 (ノート, 画用紙, タブレットなど)

7 本時の学習(1/8)

(1)ねらい

災害の種類や発生の位置や時期, 防災対策などに着目して問いを見いだし, 学習問題をつくることができる。

(2)展開

学習過程	指導事項・主な学習活動	○教師の手だて ◆評価（評価方法）
1. 自分たちの生活と自然環境との関わりについて話し合う。	- 日本ですでに行っていたことのある場所を発表し合い, 日本には様々な自然環境があることを知る。 - 日本の自然環境の特色について意見を出し合う。	○自然の美しさ, 雄大さなど自然環境の良い点ばかりではなく, 地震や津波など自然の脅威についても想起させる。
2. 本時のめあてを確かめる。	日本で起きる自然災害について話し合い, 学習問題をつくろう。	
3. 日本ではどのような自然災害が発生するか考える。	ニュースで見たことがある, 本で読んだ, といった生活体験で見知った自然災害を出し合う。	○児童の意見を聞きながら, 「地震災害」, 「津波災害」, 「雪害」など正しい名前を指導する。
4. 自然災害が発生する場所を調べ, 白地図にまとめる。	近年の, 主な地震災害, 津波災害, 風水害, 火山災害, 雪害等について, 日本のどこで起きたか教科書や資料集, タブレットで調べる。調べたものをふせんに書き, 学級で白地図にまとめる。	○学級で1枚の日本地図を作成できるよう, 大きな白地図を用意する。
5. 学習問題をつくり, 答えの予想をする。	自然災害が, 日本のいたるところで起きていることや, 発生数が多いことを白地図を通してつかみ, 人々がどのように自然災害と向き合っているか考えて学習問題をつくる。	○災害ごとにふせんを色分けし, 地図の完成後に, どこでどういった自然災害が起きたか俯瞰できるようにする。
学習問題：国や都道府県では, 自然災害に対してどのような対策をしているのだろうか。		○近年の自然災害に絞って調べるよう発生時期を指示する。
	学習問題に対する予想をする。	◆災害の種類や発生の位置や時期, 防災対策などに着目して, 問いを見いだし, 国土の自然災害の状況について考え表現している。 【思】（観察, ノート）
6. 振り返り	本時の学習を振り返り, 次時への見通しをもつ。	○「地震災害では緊急地震速報を出している」など, どの災害について予想しているか明確にさせる。
		○次時では予想を基に個人の課題をつくり, 学習計画を立てることを伝えて学習の見通しをもたせる。

8 本時の手だて

(1) 学ばなくてはいけないことを学習するための工夫

- ・提示する資料を精選し，工夫して提示することは，学ばなくてはいけないことを児童自ら進んで考えて学習問題をつくることに有効であったか。